

2021 年度 公益財団法人そらぷちキッズキャンプ 事業計画

2021 年 3 月に策定する本事業計画では、新型コロナウイルス（変異株含む）感染症拡大による、北海道内、日本国内、そして世界全体への様々な影響を想定し、コロナ禍 2 年目として慎重な姿勢での計画立案を行うとともに、コロナ禍が収束する数年後（ポストコロナ）の事業展開も見据えた計画とする。

I 事業目的及び実施方針

1. 事業の目的（定款記載事項）

本法人は難病小児を主たる対象とする自然体験施設の運営に関する事業を行い、難病小児とその家族の「QOL（生活の質）」の向上や心のケアに寄与することを目的とする。

SeriousFun Children's Network
故・ポールニューマンが創設した国際キャンプ団体。
当財団は 2016 年に正会員として認可された。

2. 本年度の事業実施方針（前年度からの継続方針） ＋コロナ禍での特別方針（太字）

医療（小児）の補完的なサービスを提供する当財団としては、事業の実施にあたって、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を第一に考えるものとする。

難病とたたかう子どもと家族に対し、安全で質の高いキャンプが継続的に提供できるよう、「SeriousFun Children's Network（以下 SFCN という）」の要求水準に準拠したキャンプの実施および、運営体制の確立、施設・設備の整備を行う。

上記について、我慢すべきことは、充電期間と捉えじっと我慢し、変化すべきことは、新しくチャレンジする。

また、安定的な財政基盤をつくるため、多様な寄付の枠組みを開発し、支援者数の増加を図るとともに、新たな継続寄付団体を獲得する。

組織運営にあたっては、持続可能な運営体制を構築するため、事業・業務の整理及び人材配置・労務管理の適正化を図る。特に具体的な人材配置・労務管理適正化の方針として、2, 3 年をかけて新たな人材の発掘・育成を重点的に行うこととする。また、**組織体制は、上述した新たなチャレンジ等に対応できるよう、柔軟に変更する。**

「キャンプ場内・見晴らしの丘からみた建物群」



II 事業内容

1. 難病小児等のための自然体験プログラムの企画及び実施（キャンプ事業）

(1) キャンプ事業の実施

本年度は、1 キャンプごと、同居する1家族に限定した、キャンプ実施を前提とする。
宿泊キャンプは年間2回、日帰り（デイ）キャンプは年間10回を、計画する。

（前年度は、宿泊1回、日帰り14回のキャンプを実施。）

「宿泊：レスパイトキャンプ」計2回、2家族参加

感染拡大が抑制されている時期に、協力小児科医と相談し、主治医が同行する宿泊キャンプを企画・準備・実施する。（7月から9月の間、計2回を実施予定）

（本年度は、国立がん研究センター、聖路加国際病院、国立国際医療研究センター、東京医科歯科大学病院、神奈川こども医療センター、北海道大学病院他へ相談予定）



「1家族限定・宿泊キャンプ・馬(前年度)」

「日帰り：デイキャンプ」計10回（夏季8回、冬季2回）、10家族参加

デイキャンプは、北海道内、特に滝川近郊や、札幌・旭川圏を対象とし、協力病院・施設を通じてその利用者への呼びかけを行う。

（本年度は、滝川市こども発達支援センター、北海道立旭川子ども総合療育センター、北海道難病連、北海道大学病院他へ相談予定）



「1家族限定・デイキャンプ・馬(前年度)」

上記2種類のキャンプは、少人数スタッフの運営体制で実施できるため、ポストコロナにおいても、年間キャンプ回数の増加や、施設の有効活用に、寄与することが期待できる。



「1家族限定・宿泊キャンプ・焚き火(前年度)」



「1家族限定・宿泊キャンプ・森(前年度)」

(2) 医療・食事支援体制等の充実

キャンプ実施期間中、医療棟(ほけんしつ)を拠点とし医療支援を行うとともに、キャンプ前後の保護者へのヒアリング等、きめ細かなキャンパーフォローを実施する。

ポストコロナのキャンプ回数増加等に対応するため、医療機関との連携強化に加え、継続的に医療スタッフ、ボランティアの募集・育成を行う。

また、キャンプ中の食事を安全に継続的に提供できるように厨房の設備や運営体制の充実を図る。

継続的に食事ボランティアの募集・育成を行う。

(上記が主に対象とする宿泊・食事を伴うキャンプは、本年度はレスパイトキャンプ2回。)



「流動食などにも対応する食事提供」

(3) キャンププログラムの充実

安全かつ楽しいキャンププログラムの提供を行うとともに、馬アクティビティや、森あそび、雪あそび等、プログラムの充実に必要な施設・道具の整備を行う。

・夏季キャンプの中核プログラム、馬アクティビティの実施のため「北海道障がい者乗馬センター」の協力を得て、対象となるキャンプごとに、調教されたセラピー馬及び障がい者乗馬インストラクターを配置する。また馬アクティビティを運営するための当財団側のスタッフ(有償、無償)の充実を図る。

・森あそびを充実させるため、ツリーハウス周辺のプログラム関連施設・設備の継続的な追加整備・補修を行い、またツリーハウス内のアクティビティ内容(お茶会等)の充実を図る。(ジップラインや展望デッキ、アプローチ園路整備等)

・雪あそびのための必要な施設、設備、道具を充実させる。



「車いすで行けるツリーハウス(冬)」



「車いすユーザーのチェアスキー」



「車いすユーザーの乗馬チャレンジ」

(4) 闘病中の子どもたちへ、ちょっとした「楽しみ」の提供

当財団の活動は、医療ケア付キャンプ場の豊かな自然の中で、病気や障がいのことを気にせず「真剣に楽しむ（シリアスファン）」非日常の時間を提供することがメインではあるが、キャンプ開催が制限されるコロナ禍において、病院や自宅に居たままで「真剣に楽しむ（シリアスファン）」非日常の時間を提供するための活動を実施する。

(前年度は、試行的に実施したため、本年度は本格的な事業展開を目指す。)

「ウォールステッカーギフト」適時

協力小児科医に相談し、北海道動物を描いた、貼って剥がせるウォールステッカーを、協力病院へ適時贈る。(前年度実績:500 セット) 協力:DADWAY 様



「ステッカーで入院中の病院を飾り付け」

「Tシャツ&エコバックギフト」通年

協力小児科医に相談し、闘病中の子どもたちに、太陽のマスコットキャラクターを描いてもらい、オリジナルのTシャツ&エコバックにして、プレゼントする。(多めに製品化し、そらぷちグッズとしてチャリティ販売も行う。) 協力:ワイズコーポレーション様



「子どものイラスト入りエコバック&Tシャツ」

「スノーギフト」1月中旬から2月中旬

協力小児科医に相談し、キャンプ場に積もった雪を専用のスノーボックスに詰め、冷凍空輸にて、雪が積もらない地域の病院や施設に贈る。(前年度実績:22箱) 協力:ボーイングジャパン様

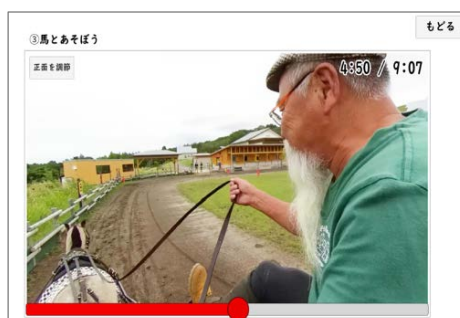


「病院内プレイルームでの雪だるま作り」

「自然体験 Virtual Reality (VR) 映像の貸出」

協力小児科医に相談し、キャンプ場で撮影した自然体験 VR 映像(夏・冬)の上映会を、病院で開催する。プロジェクター映写(出力)が可能なので、病院のプレイルームなどでの上映、親子での体験が可能。驚きや没入感が病院生活での非日常体験つながる。(専用機器を1ヶ月程度貸出することを想定。)

協力:フジテレビジョン CSR チーム様 他



「制作した馬車操縦のVR映像」

「出張キャンプ(アウトリーチ・プログラム)」1回(試行)

現在、キャンパーリクルートや、元キャンパーのフォローの中で、病院やレスパイトケア施設近くで、外遊びやバーベキューなど、アウトドアプログラムを提供してほしいというニーズが複数あがっている。SFCN内でも、アウトリーチプログラムの実績は蓄積され好評価となっている。

本年度は、協力施設うりずん(栃木)他へ相談し、出張キャンプを試行する。

なお、上記5つの新たな取り組みは、コロナ禍をきっかけに始めた活動ではあるが、ポストコロナにおいても、闘病生活にちょっとした「楽しみ」を提供するこの取り組みは、当財団の事業の一つになると考えられる。

(4) 元キャンパーのフォロー

これまで、過去にキャンプへ参加したことのある、元キャンパー(家族含む)に対し、キャンプでのつながりが、その後の生活に良い影響を与えることを期待し、様々な形でのフォローアップを継続する。

「クリスマスギフト」12月(前年度は約400名に送付)

毎年すべての元キャンパーに、
クリスマスカード、ギフト(企業協賛)を贈る。

「キャンプ用品ギフト」6月

元キャンパーに対しキャンプ用品ギフト
の募集を行い、当選者へプレゼントする。

(協力: コールマンジャパン様)



「公園で活用されたキャンプ用品ギフト」

「研究ヒアリング」

研究自体を、つながりが感じられるような手法に限定し、キャンプ参加後の日常生活への影響などをテーマに、研究ヒアリング・アンケートを実施。(協力: SFCN ほか)

「就労経験の機会提供(インターン雇用)」

免疫が低いことなどで行動に制限がある元キャンパーに対し、キャンプ場でインターン(有償)として受け入れ、就労体験の機会を提供する。(資金協力: 個人篤志家)

(5) ボランティア募集・調整ほか

これまで、人的な支援の申し出(ボランティア希望者)に関して、ボランティア登録を行い、宿泊研修会やイベントの案内、活動報告資料などの郵送を行ってきたが、不特定多数が集まってボランティア活動を行うことが見直される状況や、少人数のボランティア活動であっても、

極端に少ない機会になってきているため、本年度よりボランティア登録制度を廃止し、代わりにフェイスブックやインスタグラムなど、SNSのフォロワーとしての登録を依頼することとする。

有償スタッフ以外の人的支援が必要となる場面としては、機会は多くないが、医療食事、馬アクティビティ、キャンプ、維持管理、広報PRの事業があるため、その募集にあたっては、これまでのボランティア活動経験者(団体含む)に声をかけ、感染対策を徹底した上で、少人数のボランティアの受け入れを行うこととする。

学生等のインターン(無償・有償)については、人数や時期を限定、感染対策を徹底した上で、必要に応じて受け入れを行うこととする。(新卒の正職員採用をする際には、夏季インターン(総務)を必須条件とする。)

(6) キャンプ場(施設・草地・森)の維持管理及び整備

安全で快適なキャンプ提供のための施設維持管理を推進するとともに、施設および設備の効率的な管理等を徹底し管理コストの軽減を進める。また必要な施設等の整備を行う。

- ・主要施設群「食堂&浴室棟」「宿泊棟2棟」「医療棟(ほけんしつ)」「事務棟」「ゲストハウス」「倉庫棟2棟」「大あずまや」を管理するとともに、車いすで行けるツリーハウスや関連施設、森・草地の維持管理を実施する。
- ・浄化槽等の設備管理、草刈り、除雪等の屋外管理、施設清掃等については外部委託を拡大するとともに、維持管理ボランティア(地元支援団体・企業等)も可能な範囲で積極的に活用することにより、人件費等のコスト軽減を図る。なお、維持管理の外部委託について、可能な範囲で、福祉対象者の就労につながるよう、地元福祉団体への委託を検討する。
- ・施設利用者が安全で快適に過ごせるよう、必要設備の設置や軽微な改修を行う。
- ・中長期的な施設及び設備の改修・修繕計画を策定し、計画的に改修・修繕費の積立を行う。本年度は、計画の一環として事務棟及び医療棟の屋根塗り替え等を行う。



「キャンプ場上空からのドローン写真」

2. 難病小児等のための自然体験活動に関する啓発・普及（広報 PR・ファンドレイジング）

役員を含む法人全体が一体となった広報 PR・ファンドレイジング活動を推進する。また、安定的な財政基盤をつくるため、現在の「企業寄付」、「個人寄付」だけでなく、多様な寄付の枠組みを開発し、支援者数の増加を図るとともに、新たな継続寄付団体を獲得する。

（1）マスメディアへの露出

キャンパー及び家族の心情に配慮しつつ、知名度を上げるため、テレビや新聞、雑誌等マスメディアへの積極的な露出を図る。具体的には役員や既存支援企業のネットワーク等を活用しマスメディア用の企画資料を作成し、取材要請を行う。

（本年度は未定）

（2）インターネットを活用したPR（ホームページ、フェイスブック等）

インターネットを活用したPR（ホームページ、フェイスブック等）を行うが、閲覧者数を増やすため、積極的な更新、情報発信に取り組む。関連イベントとの連携や閲覧分析等を行うことで、効果的な情報発信を行う。

（特に本年度は、フェイスブック、インスタグラムを積極的に運用する）

また、更に効果的な情報発信を行うため、公式ホームページのリニューアルを継続する。（スマートフォン対応・英語版の充実・東京マラソンチャリティランナー出走などで外国人が寄付しやすいよう、多通貨クレジット決済（円も含む）や電子マネーPaypal 決済を本格運用する。）

（3）広報ツールの充実

アニュアルレポート（企業用パンフレット）、振込用紙付リーフレット（個人用パンフレット）、プロモーション映像（DVD等）だけでなく、カレンダーやポロシャツなどの広報ツール

（オリジナルグッズ）を充実させ、各ツールの特性にあわせ効果的に広報PRに活用する。

（本年度は、過去キャンパーデザインオリジナルTシャツ&エコバックも積極的に活用する。）



「オリジナルグッズ」

（4）企業・団体への支援依頼活動

役員や既存支援者等のネットワークを活用し、企業・団体へ以下①～③のような種類

の支援依頼活動を行う。各企業・団体のニーズにあわせ、その他メニューも提案する。

事業説明には、主にアニュアルレポートやプロモーションDVD等を使用する。また、継続支援を得るために既存の支援者フォローも重要視し活動する。

① 寄付（継続）、賛助会費

当法人の活動に賛同してもらい、寄付、会費による支援を依頼する。キャンプ実施以外の施設維持管理、職員配置にも費用がかかることを説明し継続支援を依頼する。

② 助成金（補助金）

助成金（補助金）については、常時情報収集は行うが、使途が細かく制限される場合が多いため、当法人の事業計画に沿って利用しやすい助成金に限定して活用する。

「前年度実績」

ボーイングジャパン、東京マラソン、（日本財団）

③ 応援チャリティキャンペーン

自社商品の売り上げに応じて寄付をするなど、支援企業の企業活動に関連する応援チャリティキャンペーンが実施できれば、継続されやすい支援となるため、積極的に企画提案していく。（特にドラッグストア業界関連企業に積極的アプローチする）

「過去実績」

客1人1円、自動販売機、北海道物産通販、ランタン、農産品、オムツ、箱ティッシュ、食パン、目薬、レモネード飲料、ドラッグストア販売商品、ミネラルウォーター、ラーメン、灯油 他
（前年度の事例）

（新規・継続事例：モンベル様）



(5) 支援者イベントでのブース出展

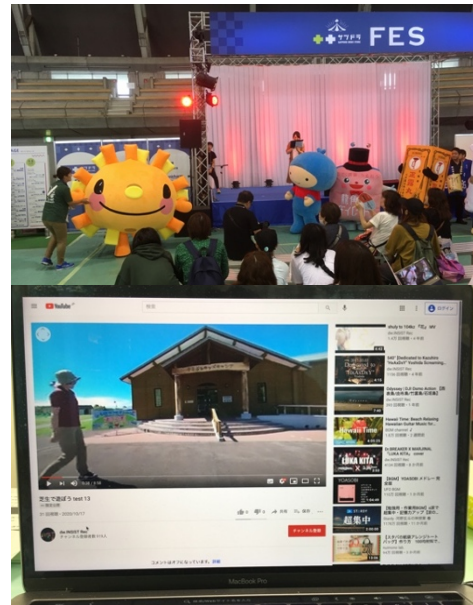
支援団体等主催のイベントに参加し、イベント趣旨にあわせPRブース等を出展する。

6月 サツドラフェス@札幌

3月 東京マラソン関連イベント@東京

3月 ドラッグストアショー@千葉/WEB

バーチャルとリアルを効果的に融合させたVR映像での施設案内やチャリティオークション等を活用し、多くの人に発信を行う。



「リアルイベントでのPRとWEB上でのVR施設案内(イメージ)」

(6) 店頭募金箱・ポスター設置依頼

日本チェーンドラッグストア協会(JACDS)様の継続支援として、加盟企業へ協力依頼し全国のドラッグストアの店頭に募金箱を設置している。設置していない加盟企業・店舗もあるため、JACDS事務局と連携し、設置を促す取り組みを行っていく。

その他、滝川市や北海道内を中心に、様々な店舗に依頼し、募金箱を設置しているが、引き続き個別の募金箱設置依頼も、積極的に行っていく。

広報ツールとしては、募金箱以外に、ポスター、ステッカー、チラシ等を活用する。

※店頭募金箱の設置拡大にあたっては、チェーン展開している企業、業界団体等へ

設置依頼のアプローチを積極的に行う。(スーパーマーケット、ホームセンター、飲食店など)

また、今後の募金活動の試行として、電子マネーなどのキャッシュレス募金などを、既存設置店や、電子マネー運営会社などと連携しながら、模索する。(PayPay 他)

(7) 各種講演会でのPR

支援団体等の主催する講演会などに演者として参加し、事業説明、PRを行う。

広報ツールとしては、振込用紙付リーフレット、プロモーションDVD等を活用する。

(8) 施設見学及びキャンプ見学

難病小児支援関連団体との交流を深め、可能な範囲で施設見学等の受入れを行う。

その他の団体の見学については、キャンプ実施に影響のない範囲で、施設見学を受入れる。

(原則、資料代 500 円/人、7~9 月はキャンプ繁忙期のため見学不可)

キャンプ中の見学に関しては、スタッフ配置等キャンプ運営に影響がでるため、慎重に調整する。原則個人の見学はキャンプ場一般公開イベント日のみとする。

(9) 写真展の開催

これまで個人支援者のフォローアップや新規獲得を目的に、キャンプの魅力を発信する写真展を、写真家小西貴士氏の協力のもと、試行開催してきた。写真展会場は支援団体に無償提供を受け、支援団体との連携事業としても効果があった。また昨年度は助成金等を活用し会場を借り上げ、写真展を主催。各種PR成果があった。

本年度も過去の実績を踏まえ、写真展を企画実施する。

「昨年度の実績」：企画を改善し適宜、開催依頼をする ★印は会場借り上げ主催

★札幌オマージュ（・大手町サンケイビル） 他

(10) 広報PRイベントの開催

市民や支援者との交流を目的に「キャンプ場一般公開イベント」を10月に開催する。



「キャンプ場一般開放イベント(過去の様子)」

(11) 個人への支援依頼活動

個人寄付の新規獲得、継続依頼にあたっては、振込用紙付リーフレットやイベント案内、キャンプ場通信などの資料が中心となるが、その他様々なツールや機会でも積極的な情報提供を行っていく。(特にフェイスブックなどSNSを有効活用する。)

① 寄付(継続)、応援会員

年に1回(11月頃)活動報告資料一式を郵送し、継続支援の依頼を行う。

② 応援キャンペーンへの参加

応援チャリティキャンペーンの告知を行い、応援商品等を購入してもらう。

3. 難病小児等のための自然体験活動に関する調査及び研究(調査研究事業)

ネットワーク拡大を目的とし、関連学会(医療系・野外活動系)等へ参加するとともに、職員研修として、各種講習会参加、他施設見学等を行う。

キャンプ体験の効果については、キャンプ後アンケートや保護者及び主治医へのヒアリングを通じ、継続的に記録収集・分析を行い、調査研究に取り組む。

4. SFCN との連携の強化

SFCN との連携強化のため、正会員に求められるキャンプ運営上の様々な基準に対応するとともに、各種の情報交換を理事会及び研修会の WEB 参加などにより行う。

特に、本年度は新型コロナウイルス (Covid-19) の情報交換を積極的に行い、新たなガイドライン作成に取り組む。

「SeriousFun Children's Network (SFCN)」 ※アニュアルレポート抜粋

シリアスファンは、ハリウッド俳優、故・ポールニューマン氏が米国に創設した、難病の子どもと家族のための医療ケア付キャンプの世界的なネットワークであり、そらぶちは、アジア (中東を除く) 初の公認キャンプ場となります。シリアスファンでは、定期的な現地審査と書類審査により、世界基準の安全性とサービスの質の認定を行っており、そらぶちは、2016年11月より正会員として加盟しています。



キャンパーたちと故・ポールニューマン氏 (中央)



シリアスファン加盟により、新しいロゴになりました

「シリアスファン公認キャンプ場・所在地 (16カ所)」

米国フロリダ、米国ニューヨーク、米国オハイオ、
米国コネチカット、米国ワシントン、米国ミシガン、
米国カリフォルニア、米国コロラド、米国ノースカロライナ

アイルランド、ハンガリー、
イタリア、イスラエル、
フランス、イギリス、日本 (そらぶち)



シリアスファンチルドレンズネットワーク



フルメンバー、プロビジュアルメンバー
(専用建物を持つキャンプ)



グローバル・パートナーシッププログラム
(建物を持たずプログラムを行うキャンプ)

シリアスファンとして、アメリカ (米国)、ヨーロッパ、アジア、アフリカなど世界中で、16カ所の公認キャンプ場の運営と多数のキャンププログラムの提供を行っており、これまで50以上の国々から70万人を超える、難病の子どもと家族を無料でキャンプに招待しています。